

めばえ保育園の自己評価

一昨度から続く新型コロナウイルス感染症による制限は緩和されつつあるものの、今年度も園生活や活動（行事）の制限を余儀なくされました。

その中でも日々の生活や体験を通して、成長していく子どもたちの育ちを保障していけるよう、その都度、必要な感染対策を講じながら、一人ひとりの姿（育ち）に応じて計画と実行と振り返りを行ってきました。

日々の保育を通して年少組は情緒が安定していき、心地よく園生活を過ごすようになり、目標のひとつでもある自我がしっかりと芽生え出すとともに、月齢に応じた基本的な生活習慣も身につけてきたように感じています。また年中長組は、グループ内活動や当番活動、集団あそびなどを通して、月齢に応じた協調性の育ちもみられるようになってきました。さらに、広々とした園庭や自然と触れ合える畑や動植物などの環境を通して、運動機能の育ちや豊かな感性と面白い知恵や工夫などもみられるようになってきました。

その育ちを保護者の方々に披露した際の感想においても、園生活での育ちを感じるとの感想を多くいただいたことは幸いでした。特に、生活発表会では全保護者に全クラスの姿を見て頂いたことで、各年齢の育ちが垣間見えたことや年長児の勇気や表現力、クラスの団結が素晴らしかったとの意見を多く寄せられました（66世帯中25世帯より）。コロナ禍においても、保護者の方に保育が伝わるよう（子どもの育ち）、おたより帳（年少組）やクラス便りなどを活用したり、保育場面の様子を写真で掲載するなどしてきましたが、改めて、実際を見てもらうことの大切を感じました。

幼児教育・保育の無償化により保育現場には、より質の高い保育が求められ、さらにはコロナ禍において多様化・複雑化する課題への対応を強いられたが、保護者の協力のお陰で、何とか乗り越えることが出来たように感じています。

次年度も一人ひとりの最善の利益を保障していけるよう、保育を行っていきませんが、さらに今般の未曾有の事態を踏まえ、安全計画や業務継続計画を策定し取り組んでいく必要があることから、計画を踏まえた保育を心がけていきたい。